

2025年3月 東京地区百貨店売上高概況

2025年4月25日

I. 概況

1. 売上高総額	1,467億円余
2. 前年同月比（増減率）	-4.2%（2か月連続マイナス）
3. 店頭・非店頭の増減	店頭-5.7%（91.0%）：非店頭14.6%（9.0%） （ ）内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	12社 22店（本年2月対比±0店）（前年同月比：±0店）
5. 総店舗面積	669,177㎡（前年同月比：-9.9%）
6. 総従業員数	12,505人（前年同月比：-7.2%）
7. 3か月移動平均値	8-10月 1.4%、9-11月 0.5%、10-12月 1.1%、 11-1月 3.1%、12-2月 1.7%、1-3月 -0.4%

【参考】2024年3月の売上高増減率は10.9%

【特徴】

3月の東京地区は、降雪や気温乱高下等の不安定な天候要因による客数減（10.6%減）に加えて、免税売上の低調も影響し、売上高は4.2%減と2か月連続のマイナスとなった。具体的なアイテムの動向は以下の通り。

衣料品（4.6%減）：月前半は気温低下で春物商品の動きが鈍かったが、中旬以降の気温上昇に伴い、婦人服・洋品ではカットソーやブラウス、ワンピース等が稼働。その他、ギフト需要でハンカチやスカーフ等も好調。ビジネス用途のメンズウェアはカジュアル化が進み単品買いが目立つ。

身のまわり品（9.6%減）：ラグジュアリーブランドのバッグや財布が免税売上の低調から苦戦した一方、アクセサリは、卒入学、ブライダル等のオケーション需要や、限定商品を展開したブランドもあり好調。

雑貨（2.8%減）：化粧品は4月以降の価格改訂前の駆け込み需要もあり、0.5%増と好調。国内・免税共にスキンケアやメイクアップ商品等幅広く稼働。美術・宝飾・貴金属は、売場改装等の影響で2.7%減と2か月連続マイナスだが、時計や金製品等は好調。

食料品（4.4%減）：引き続き価格高騰の影響や入店客数減で9か月連続マイナス。菓子はホワイトデーや送別ギフトの需要もあり好調。月下旬からの花見需要では弁当、惣菜、寿司等が伸長した他、月を通して物産展等の食品催事は盛況。

4月足元動向：円高基調が続き免税売上が減少傾向にあることから、前年比8.2%減（4/17時点）で推移。

【要因】

- (1) 営業日数増減 31.0日（前年同月比 ±0.0日）
- (2) 入店客数増減（回答店舗数で見る傾向値／前年同月比／有効回答数17店舗）
 - ①増加した：5店、②変化なし：1店、③減少した：11店
- (3) 3月歳時記（ホワイトデー、卒業・入学、新生活）の売上（同上／有効回答数12店舗）
 - ①増加した：2店、②変化なし：7店、③減少した：3店

東京地区百貨店 売上高速報 2025年3月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	146,738,063	100.0	-4.2
紳士服・洋品	10,742,906	7.3	-6.0
婦人服・洋品	24,243,223	16.5	-3.2
子供服・洋品	3,828,836	2.6	-9.9
その他衣料品	1,576,893	1.1	-3.3
衣 料 品	40,391,858	27.5	-4.6
身のまわり品	25,338,541	17.3	-9.6
化粧品	17,694,480	12.1	0.5
美術・宝飾・貴金属	15,786,331	10.8	-2.7
その他雑貨	4,414,192	3.0	-14.4
雑 貨	37,895,003	25.8	-2.8
家 具	2,261,108	1.5	11.6
家 電	1,225,355	0.8	45.9
その他家庭用品	3,679,033	2.5	8.5
家 庭 用 品	7,165,496	4.9	14.5
生 鮮 食 品	3,141,539	2.1	-2.1
菓 子	10,827,919	7.4	-5.6
惣 菜	5,912,562	4.0	-6.7
その他食料品	8,873,723	6.0	-2.2
食 料 品	28,755,743	19.6	-4.4
食 堂 喫 茶	2,207,637	1.5	-15.6
サ ー ビ ス	2,181,364	1.5	8.7
そ の 他	2,802,421	1.9	1.7

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	1,512,881 千円	-8.4
従 業 員 数	12,505 人	-7.2
店 舗 面 積	669,177 m ²	-9.9

営 業 日 数	31.0 日	前年	31.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は家庭用品を除く4品目がマイナスとなった。
その他の品目は、化粧品が43か月連続、家具が6か月ぶりにプラスとなった一方、紳士服・洋品、婦人服・洋品、美術・宝飾・貴金属が2か月連続、生鮮食品が12か月連続でマイナスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
総額	-4.2	-	2か月連続マイナス
紳士服・洋品	-6.0	-0.4	2か月連続マイナス
婦人服・洋品	-3.2	-0.5	2か月連続マイナス
子供服・洋品	-9.9	-0.3	2か月連続マイナス
その他衣料品	-3.3	-0.0	4か月連続マイナス
衣料品	-4.6	-1.3	2か月連続マイナス
身のまわり品	-9.6	-1.8	2か月連続マイナス
化粧品	0.5	0.1	43か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	-2.7	-0.3	2か月連続マイナス*
その他雑貨	-14.4	-0.5	7か月連続マイナス*
雑貨	-2.8	-0.7	5か月ぶりマイナス
家具	11.6	0.2	6か月ぶりプラス
家電	45.9	0.3	4か月連続プラス
その他家庭用品	8.5	0.2	5か月連続プラス
家庭用品	14.5	0.6	2か月連続プラス
生鮮食品	-2.1	-0.0	12か月連続マイナス*
菓子	-5.6	-0.4	9か月連続マイナス*
惣菜	-6.7	-0.3	9か月連続マイナス*
その他食料品	-2.2	-0.1	12か月連続マイナス*
食料品	-4.4	-0.9	9か月連続マイナス
食堂喫茶	-15.6	-0.3	9か月連続マイナス
サービス	8.7	0.1	3か月連続プラス
その他	1.7	0.0	4か月連続プラス
商品券	-8.4	-0.1	13か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した

お問い合わせは、日本百貨店協会 橘・青柳 まで
EL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>